


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	昔の我が家を思い出していただけるよう建物や敷地も工夫しており、施設ではなく、家事を自分でできるだけ行う「自宅に住む」感覚を持っていただけるよう努めています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	毎月、職員会議において運営上の方針や理念・目標の確認を実施しています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	入居時の家族への説明を十分に行うことはもちろんのこと、家族来所時などに随時報告を行いながら理念の浸透を促しています。また職員が自治会に参加する際等、地域への広報を行い、地域の人々への理解にも取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	近隣住民の方への挨拶やちょっとしたコミュニケーションを大事にすることで日常的な付き合いができるよう努めています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	当ホームの代表が自治会長を勤めています。また交流会等定例の行事をホームで行うことで地元の人々との交流を深めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定例の交流会以外にもいつでも 見学、お茶ができることを伝え、書類等を届けにこられた方でも積極的に声かけやお茶だしなどを行い、気軽に相談していただけるように努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を職員一同真摯に受け止め、その後の職員会議などを通して、改善点の意義を理解し、統一見解を持って職務に取り組むように努めています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族の来所が頻繁でない方の疎外感をどうか解消できないかと提案したところ、ご家族からの身近な生活用品をプレゼントしてみても？との提案があり、今回食事の際に使う茶碗・箸・湯のみなどの生活用品をプレゼントしていただくこととなりました。今回の試みでホームでは、マイ茶碗・マイ箸のプレゼントで涙を流して喜ばれた方もいらっしゃいました。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常生活での本人の意向や必要性に応じて佐賀市地域包括支援センターのケアマネージャー等にも支援方法の相談や提案などをお願いしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定期的に講習会や説明会などに職員を参加させ、職員からの報告書として職員会議などで全職員に周知を促すよう努めています。必要があれば、ご家族等への提案もさせていただいています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に講習会や説明会などに職員を参加させ、職員からの報告書として職員会議などで全職員に周知を促し、防止に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の家族・利用者への説明、確認を十分に行い、質問や疑問点があれば必ずご納得いただけるまで説明を行います。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員に対して相談、苦情の受け入れができることを繰り返し伝え周知徹底を図っています。また玄関に意見箱を設置し、苦情・相談があれば速やかに対応・対策の検討を行い、回答し、記録を残しています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来所時には、近況や経過的な処遇を確実にご報告するように努めています。また特記事項に関しては、可能な限り事前に報告を行い、対応を行うように努めています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員に対して相談、苦情の受け入れができることを繰り返し伝え周知徹底を図っています。また玄関に意見箱を設置し、苦情・相談があれば速やかに対応・対策の検討を行い、回答し、記録を残しています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議は、介護職員からの発言や提案を元に行っており、その会議で出た意見をホーム運営に反映させています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	新しい利用者が入居されたときや利用者の心情や体調の変化又は、家族からの希望などにより介護にかかる時間が増大する場合は、人員配置を短期的に増やし、管理者・運営者・職員にかかわらず、勤務の調整を話し合いにて行い、利用者への必要な処遇に努めています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は、最小限にとどめるよう、努力しておりますが、馴染みの職員が退職する場合は、新規職員とできるだけ引継ぎ期間を長く設けられるよう努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	サービスの質の向上のためには、交流の機会は大切だと感じています。今後、近隣の同業者とも相談し、そういった機会を定期的に設けることができるよう努めます。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	職員のストレス軽減の面から見ても、ほか施設の方々との交流・意見交換などは、有効だと考えます。今後、近隣の同業者とも相談し、そういった機会を定期的に設けることができるよう努めます。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にこられた方々が必ずしもグループホーム利用が適しているとは、考えず、何にお困りで、何が必要なのかを見極め、必要であれば、居宅サービスの導入やほか施設サービスも提案しております。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所されて間もないころは、基本的にはご本人の自由に過ごしていただきながら、職員全員で観察し、少しずつホームになじんでいただけるようご家族と相談しながら改善すべき点や維持すべき点を小出しに提案していくように努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護や業務を優先せず、呼び止められたり、話かけられたりするときは、何よりもまず利用者とのコミュニケーションを重視し、一緒に家に住んでいる家族と思っただけのように努めています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ともできるだけコミュニケーションをとるようにし、些細なことでも気軽に話していただけるような関係を築けるよう努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の基本情報など、担当職員別に周知徹底を図り、入居までの流れや家族との関係を把握するように努めています。関係の良し悪しはこれまでの生活環境や状況により大きく異なりますので、関係が悪化しないよう職員同士で話し合いながら支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所された利用者様のほとんどが近隣からの入所ではないため、お手紙を書いて連絡をとるようにしてもらうなど努めています。又お友達が気軽に遊びに来ていただけるよう、お茶や食事の提供も行っております。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格の違いから小競り合いが発生することがありますが、個別に職員が間にはいたり、落ち着くまで食事の席を離すなどそのときに応じて対応しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後の生活相談等、連絡をいただければ随時、対応できることを退居前にご家族やご本人にお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを重視し、希望や意向はできるだけ汲み取れるように努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の基本情報など、担当職員別に周知徹底を図り、これまでどのように過ごされてきたのかを把握するように努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	暮らしへの希望や意向はできるだけ汲みますが、意欲低下によるものや依存的なものとは区別して把握できるよう職員間の情報交換を密にしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者別に担当職員を決めて、定期的に課題提起を行い、それを元に家族や本人ほか職員と相談しながらケアプランを作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは期間に応じて職員会議にてモニタリング結果を話し合い、見直しを行っています。見直し以前に対応できない変化が生じた場合は現状に即したプランを話し合いご家族・本人に確認し、作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別処遇記録を作成し、特記事項は、全職員が周知できるよう確認を行っています。又、その記録からケアプラン作成の材料となる課題提起を行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	レクリエーションや機能訓練ほか支援はこちらから一方的に行うのではなく、本人の希望や要望に合わせてこちらで行えるものを提案しながらすこずつ行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームには定期的に民生委員やボランティアなど訪問があり、本人の必要性に応じて支援を受けられるよう努めています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同業者との交流を機会を設けてまでは行っていません。研修会等参加した際の情報交換にとどまっています。	○	サービスの質の向上のためには、交流の機会は大切だと感じています。今後、近隣の同業者とも相談し、そういった機会を定期的に設けることができるよう努めます。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	日常生活での本人の意向や必要性に応じて佐賀市地域包括支援センターのケアマネージャー等にも支援方法の相談や提案などをお願いしています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外でもご本人希望があればそちらから医療を受けていただいています。どちらの病院に受診されてもかわらないことも入居時に説明しております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや対応には、使う言葉を選び一人ひとりの性格や能力にあわせて短くわかりやすく話したり、方言を交えて話したり職員ができるように努めています。また個人情報の記録もプライバシーを考慮したうえで使用する用語はある程度統一して使用しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	レクレーションや機能訓練ほか支援はこちらから一方的に行うのではなく、本人の希望や要望に合わせてこちらで行えるものを提案しながらご本人にできるだけ選択していただけるよう配慮しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員でそろってレクや機能訓練を行うこともありますが、利用者の身体状況に違いもあるのでご本人のペースに合わせて個別に機能訓練等を行う場合もあります。その日の体調や本人の希望にできるだけ沿って支援を行っています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服は持ち込み自由なので入居者はそれぞれ服装をご自分で選ばれおしゃれを楽しんでいます。意思表示がうまくできない方には職員が選んだものの中から本人に着る服を決めてもらっています。数人は行きつけの美容室をお持ちで美容室の送迎で利用されています。職員の方でも無料のカットを行っています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は、その日畑から一緒にとってきた野菜を使い、自分たちが収穫したものの中からどれをどんな風に食べたいか選んで決めていただき提供するようにしています。食後の片付けも自宅での生活を意識していただいていることから、自発的に職員と一緒に行っていただけます。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコは現在希望されている利用者はいらっしゃいません。おやつ等は嗜好にあわせて選んでいただけるよう複数準備し、できるだけ希望があれば用意するように努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄支援は、排泄の時間を記録確認して行っていますが、定刻で行うのではなく、できるだけご本人の意思表示に合わせて行っています。おムツやパット等も失禁をされない時間帯や本人の希望があるときはパンツを使用しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は完全に個別にしてあり、本人の希望を取り入れた上で順番を決め血圧や体調等に問題がある方以外は、入浴時間は自由に行っています。現在は仲のいい利用者同士一緒に入りたいなどの希望も取り入れています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	いつでも自由に休息していただけるようにダイルームにカウチを設置しています。又ベランダにもソファを設置しています。夜間よく眠れないとおっしゃる方には、職員が雑談、お茶などで対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者全員が女性ということもあり、家事全般を自発的に手伝っていただきながら日常生活を送っています。またもともと農業をされていた方などは畑仕事や土いじりを好んで自発的に行われます。利用者お一人お一人に役割があり日常生活にメリハリができるよう支援しつつ喜びのある日々をすごせるように努めています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理代行はしておらず、買い物を頼まれるとき、お金を預かる場合は職員2名以上の立会いを行い、領収書を本人・家族へ渡すようにしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の希望があれば、職員が付き添いいつでも外出できるようにしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的にドライブ等を行っています。特別な外出(法事や墓参りなど)は入居者が家族と行きたいという希望があるときは、連絡をとり、連れて行ってもらえるよう支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば手紙やはがきを提供し、手紙のやり取りを自由に行ってもらっています	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入所された利用者様のほとんどが近隣からの入所ではないため、お手紙を書いて連絡をとるようにしてもらうなど努めています。又お友達が気軽に遊びに来ていただけるよう、お茶や食事の提供も行っております。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていませんが、ほかの施設で行われている事例を参考に原因・方法・結果について検討しています。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常鍵はかけていませんが現在例外として玄関を施錠しています。(感情の起伏が激しく、突発的に自宅に帰ると外出しようとする利用者がいらっしゃるため) 家族には説明し、承諾を受けています。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者が動かれるときは常時職員が見守り安い場所に行き所在や様子を確認します。洗面所や事務所の壁にも窓を設け、できるだけ死角をなくしています。又、夜間のトイレや移動に関しても安全上必要と判断した利用者には、家族の承諾を受け、センサーマットを自室に設置して移動の状況を確認しています。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共用で使用する物品は、保管場所や数量を確認しており入居者に貸し出す場合は、必ず返却を確認しています。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起きた場合には、必ずできる限り細かく記録をとり、再発防止のため、そのつど話し合いを行い今後活かしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員同士での応急手当の練習。実際に緊急時の対応を行った場合は、記録をとりそれを元に今後の対応について検討を行っています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回ほどの中庭への移動避難訓練を行っていますが、利用者の身体状況の変化や新規入居者も含め、新しい避難マニュアルを検討中です。	○	今後、マニュアルを作成し、消防署等にも相談しつつ利用者の安全かつ確実な避難方法を検討していきます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時検診・定期健診の結果や医師の所見を基にご家族への報告・話し合いを行い、起こりうるリスクについて十分説明しています。その上でご本人・家族の意思を尊重して支援に努めています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常処遇の中で近況の処遇と比較しながら、異常を察知した際は、速やかに家族やかかりつけ医への連絡を行い、対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容を人目で確認できるよう、個人の薬品情報をまとめています。服薬に関してもかかりつけ医やご家族と連絡を密にとり、症状の変化や服薬の影響の確認に努めています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘は服薬のみの改善に頼らず、適度な運動や食事・おやつに食物繊維や乳製品を多く出すなど、できるだけ服薬以外で予防・改善できるように努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必ず歯磨・入れ歯の洗浄を行ってもらうよう、職員が見守り・声かけを行い、基本のご自分ですべて行っていたくよう努めています。又夜間は義歯を預かり、機械的・化学的洗浄を行っています。定期的に口腔内の確認も行い、必要があれば協力歯科に相談・往診もお願いしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量・水分摂取量は毎食確認・記録しており不足分は、おやつでのカロリー摂取や食後に水を一杯飲んでいただくなどの対応を行っています。又栄養状態の確認も体重管理や定期健診・身体状況の観察にて行っており、必要があればかかりつけ医や家族への相談を行い、受診をすすめています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	県からの通知をもとに実行していきます。(手洗い、うがいの実施等)		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	県からの通知をもとに実行していきます。(食中毒予防に関して)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはスロープをつけ、段差をなくしています。また季節の花を植えています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物、生活空間はすべて昔の日本建築をイメージした木造で浴槽は檜作り、タンスの装飾は実際に昭和から使われたものを使用しています。日中は天窓から光が入るようにしており各居室、ダイルームの照明は天気・入居者の希望に合わせて調整しています。テレビの音量なども入居者の聴力に合わせて席替えをし調整しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が集まるダイルーム以外に机・座布団を用意した畳のスペースとベランダにも机とソファを置き、いつでも入居者どうしで自由に過ごせるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気を伴うもの以外は、持ち込み自由です。ダンス・TV・仏壇等持ち込まれ、生活用品もご本人が使い慣れたものを使用されます。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日定期的に窓を開放し、換気を行い、冷暖房は入居者の希望、体調にあわせ調節し、冷暖房の使用を拒まれる方には、事前にタイマーをセットし部屋の温度を調節しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は段差をなくし、トイレ・脱衣所・風呂場には手すりを設置。各部屋・廊下の壁には木製の段差をつけています。水道はセンサー式、扉はスライド式です。すべてのスペースで車椅子での生活が可能な設計になっています。(洗面台やトイレの高さ・廊下の幅や出入り口の幅など)		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	誤認や錯覚を防止するため(木目を虫と思われるケースがあるので)、要所要所に装飾品を置き、入居者の視線がそちらにむくようにしています。(絵画・花・ぬいぐるみなど) 又場所の間違いなどからおこる混乱を防ぐため、部屋の入り口には何をやる部屋なのかイラストつきで張り紙をしたり、自室には色別のシールと名札をつけるようにしています		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには自由に休息できるスペースをよういしています。又外回りの敷地内に畑を作っており、入居者と一緒に野菜の収穫や手入れを行っています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)